

**表したい想いを作品づくりにつなげて表現できる生徒の育成  
～思考の軌跡を残すワークシートを用いた対話活動を通して～**

新潟市立万代高等学校  
石川みどり（H11年度）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編美術編では、第1章第2節芸術科改訂の趣旨及び要点として3（2）イ（エ）言語活動の充実がある。その中に『〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにするなどの言語活動の充実を図れるようにした。』とある。特に〔共通事項〕は中学校美術でも学ぶことであるため、生徒が表現したい想いと照らし合わせながら考えられるようにしていく必要がある。

生徒の実態として、授業の発想の段階で十分に構想を練ることができないことがある。原因として、①描いたものに想い入れがあり、満足してしまう、②複数考える必要性を感じていない、③見直す視点が身に付いていない、④複数考える経験が少ない、ことが考えられる。この中から③見直す視点が身に付いていないに注目し、「考えを可視化すること」「他者と対話するコミュニケーションをとって自分が大切にしたい考えを明確にすること」を用いることで、生徒が制作時に自分の作品を見直す視点とした。

本実践では、ワークシートを基に自分の心の動きを言葉で書き留めながら、ペアでの対話活動を通して表したい想いを深掘りし、それを根拠に表現を追求する姿を目指す。表現を見直しながら制作することで、自分がこだわった部分や工夫点に着目し、作品への自信につなげて見直しの必要性を感じさせたい。

このテーマは、感染予防対策やタブレット端末の貸与など生徒の学習環境が変化する中で、ワークシートの形を変えながら試してみた所、制作を伴うどの題材でも有効であった。R5年度からはICT活用として「ロイロノートスクール」アプリを使用して個人の表現の追求方法を他者に共有する方策も加えた。タブレット端末を使用すると、文章だけでなく写真も一緒に入れられるため、授業前後の写真比較から表現したいことをどのように進めていったのか変化が分かり、記述も具体的になることが分かった。